

「政策提案の有効性が、現場で確認できました。

＝千葉沖の覆砂域でマコガレイの産卵が確認されました。＝」

東京湾再生官民連携フォーラム（代表：來生 新 放送大学学長）では、国・自治体・漁業関係者・大学・市民団体などが参加し、東京湾の再生方策を一緒に検討してきました。湾再生の第一歩として、良質な砂を覆砂（海底面への砂の散布）することによるマコガレイの産卵場づくりを、国・自治体（東京湾再生推進会議）へ政策提案いたしました（平成 28 年 2 月）。

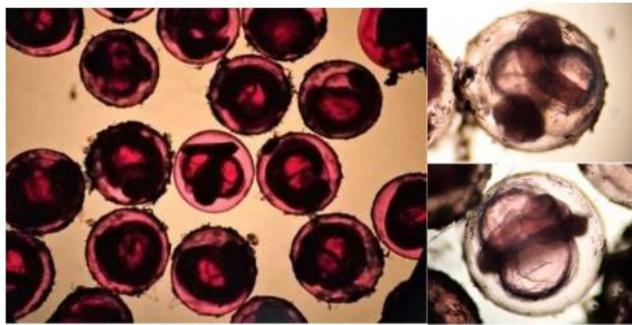
このたび、国土交通省関東地方整備局千葉港湾事務所や千葉県などの関係者のご尽力により、令和元年 5～6 月に、浚渫土砂を活用して千葉県習志野沖の海域に数か所の小山状の小規模覆砂をしていただきました。

提案は、官民連携フォーラムに設けられた「生き物生息場づくりプロジェクトチーム(PT)」(PT 長：佐々木淳 東京大学教授) が取りまとめたものです。同 PT が、千葉県水産総合研究センターや市民メンバー・研究者らとともに令和元年 12 月に追跡調査(図一1)を行ったところ、覆砂域でのマコガレイの産卵を確認しました(図一2)。この海域では覆砂前には産卵があまり見られませんでした。場所によっては覆砂前 3 か年に比べて、高い密度で卵が分布していました。

提案を受けての東京湾再生推進会議(国・自治体)のご努力に感謝いたします。今後も、PT を中心に調査を継続し、マコガレイの回復方策を検討してまいります。フォーラムは、東京湾の再生に向けて関係者と力を合わせ息の長い努力を積み重ねてゆく所存です。引き続きのご支援・ご協力をお願いいたします。



図一1 習志野沖での PT の調査



図一2 採取されたマコガレイの卵 (PT 資料から)
(ローズベンガルによる染色後撮影。

発生段階は胚体形成期が主体。)



図ー3 東京湾のマコガレイ

参考資料：①生き物生息場づくり PT 速報「マコガレイ産卵場調査の結果について」
②国土交通省関東地方整備局記者発表資料

URL: 東京湾再生官民連携フォーラム：<http://www.tbsaisei.com>

生き物生息場づくりの政策提案：

http://www.mlit.go.jp/report/press/port06_hh_000114.html

東京湾再生推進会議：https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/

国土交通省関東地方整備局（港湾・空港）：<https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/>

マコガレイ産卵場調査の結果について(速報)

東京湾再生官民連携フォーラム生き物生息場づくりプロジェクトチーム

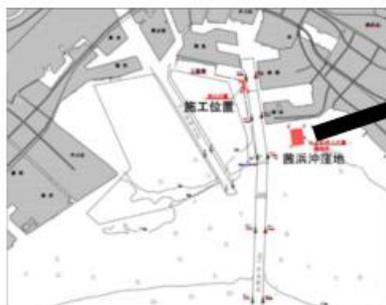


図1 調査場所
(千葉県習志野市磯浜地先)



図3 採集されたマコガレイ卵
〔ローズベンガルで染色後に撮影〕
〔発生段階は胚体形成期が主体〕

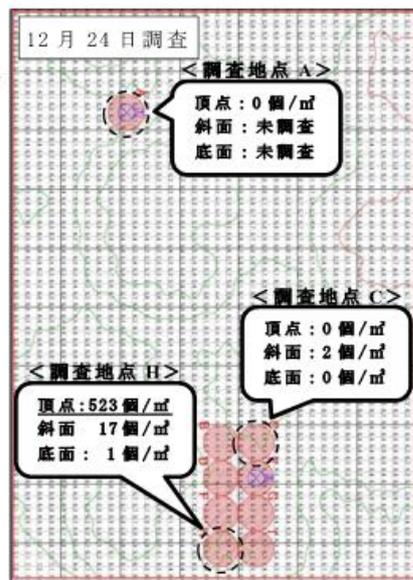


図2 調査地点と卵の分布密度
〔点線黒丸は調査地点〕
〔赤丸は底質改善場所〕

(概要説明) 2019年5~6月に良質な浚渫土砂の有効活用により社会実装された政策提案「東京湾北部沿岸におけるマコガレイ産卵場の底質改善」について、2019年12月24日に本PTと千葉県水産総合研究センターが共同で調査を行い、卵の分布状況を確認しました。調査地点は底質改善が行われた千葉県習志野市磯浜地先(図1)の底質改善場所9か所のうち3か所とし、土砂投入マウンドの頂上, 斜面, 底面のそれぞれで採卵ネットを曳網して行いました。その結果, 調査地点3か所(A, C, H)のうち2か所(C, H)で卵が採集され, 特に沖側の調査地点Hの頂点では523個/㎡と, 2015~2017年における同時期の平均分布密度32~594個/㎡と比較し, 高い密度で卵が分布していました(図2, 3)。今回の調査地点は, 底質改善前は海底に泥質分が多く堆積し(図4左), 過去の調査で卵の分布があまりみられなかった海域でしたが, 今回の調査では多数の卵が採集されました。また, 卵の他, 船を固定させるアンカー代わりの底びき網に, 産卵後と思われるマコガレイ成魚が2尾入網しました。同時に行った底質調査では, マウンドの頂上で細砂主体の底質が維持されていることが確認され(図5), 底質改善の効果は半年以上持続していました。



図4 底質改善の前(左)と後(右)の海底

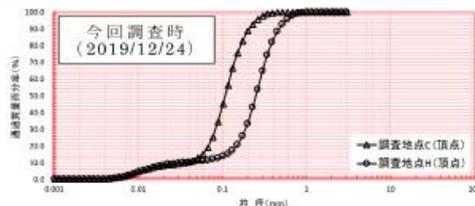


図5 調査地点の粒径加積曲線